

令和元年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下中学校

教諭 風間啓太

1 研究主題

『租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成』
～租税教室体験を通して～

2 主題設定の理由

私たちの暮らしは、国や地方公共団体の政治と深く結びついている。その政治は私たちが安心して生活できるように、様々な公共サービスを行っている。身近なところでは、学校建築や義務教育諸学校における教科書の無償配布、生活や安全を守るための警察や消防、健康を維持するための医療などがそうである。これらの公共サービスを行うために必要な費用のほとんどが、国民の納めている租税によってまかなわれている。

租税について、生徒は消費税の存在は知っているものの、自分たちが納めている消費税の使途、自分たちの社会が維持され安心して暮らせるための財源、租税が果たしている役割等をはっきりと認識しているわけではない。また、どのようなところで租税とかわかり、どのように納めているのかなど、なかなか知ることができない。さらに、現代社会は租税の未納などが問題化している。そのために適切な医療を受けられない人もいるなど、租税に対しての意識が希薄になってきているのも事実である。

未来の日本を担う一員として、納税者として租税の使い道に関心を持つとともに、日本の財政について正しい知識を持つことで、租税を正しく理解し、主体的に考える態度を育成したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒を育成するにはどうすればよいか租税教室体験を通して明らかにする。

4 研究仮説

租税教室を体験し、租税の仕組みや使途を知ることで、租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒を育成できるであろう。

5 研究方法

研究目標を達成させるために以下のことを行う。

- 1) 租税に関する生徒の実態調査
- 2) 租税教室の実施
- 3) 租税教室を終えての振り返り（租税教室受講の前と後で、租税への意識の変容を把握する）

6 研究計画

- ・アンケートを用いての実態把握
- ・仙台南税務署の署員の方を招いての租税教室
- ・アンケートを用いて、意識の変容の調査

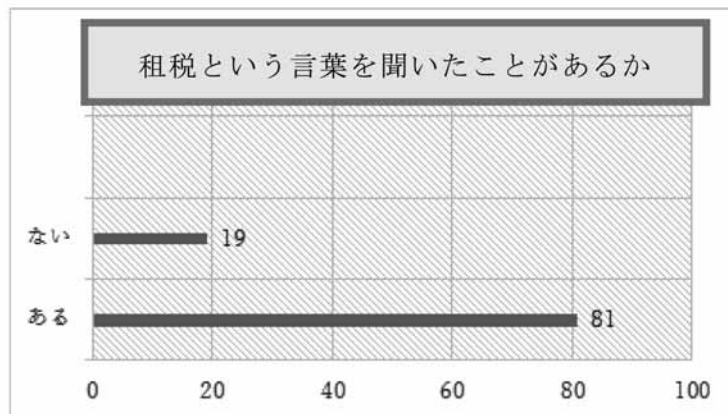
8月29日	実態把握
9月19日	租税教室
9月20日	振り返り

7 研究の概要

1) 租税に関する実態調査 (対象2学年調査数60名) 8月29日実施 回答者53名
 <租税教室実施前>

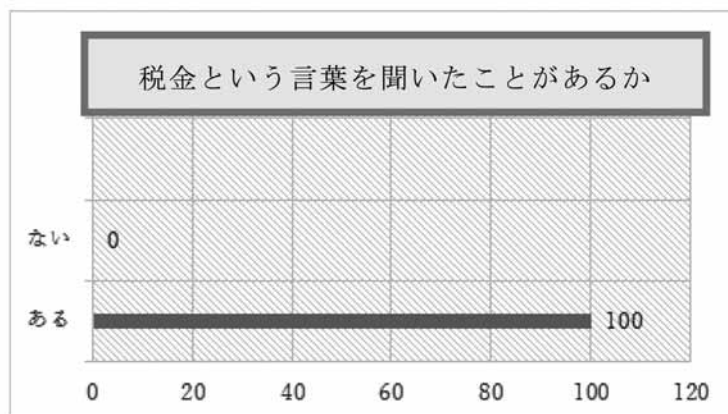
①租税(そぜい)という言葉を知ったことがありますか。

- ・ある 43名 (81%)
- ・ない 10名 (19%)



②「税金」という言葉を知ったことがありますか。

- ・ある 53名 (100%)
- ・ない 0名 (0%)



③知っている税金の名前を書いて下さい。(生徒の回答のまま表記)

- ・消費税 (49名)
- ・所得税 (15名)
- ・住民税 (7名)
- ・相続税 (3名)
- ・自動車税 (2名)
- ・たばこ税 (2名)
- ・固定資産税 (2名)
- ・酒税 (1名)
- ・法人税 (1名)
- ・県民税 (1名)

④税金は何のためにあると思いますか。(生徒の回答のまま表記)

- ・国のため (47名)
- ・国民の生活のため (40名)
- ・暮らしをよくするため (35名)
- ・将来の私たちのため (28名)
- ・政治をよくするため (20名)
- ・公共施設を作るため (10名)
- ・社会保障のため (3名)
- ・年金のため (1名)

⑤税金について必要かどうかなども含め、あなたの考えや感じたことを書いて下さい。

- ・国民の義務だから必要 (38名)
- ・あまり多く納める必要はないけれど必要 (30名)
- ・本当に必要な分だけ納めるのであれば必要 (15名)
- ・救急車やゴミ回収など色んな所で必要 (8名)
- ・増税をする前に節約することが必要 (8名)
- ・高齢者が暮らせなくなるから必要 (3名)
- ・必要ではあるけれど、消費税は2～3%で良いと思う (1名)

⑥どんなことに税金を使うのがよいと思いますか。思ったことを書いてみよう。

- ・国民の生活を良くするため（５０名） ・住宅や公共施設を直したりするため（３４名）
- ・生活に困っている人や、町の復興や発展のため（３０名） ・年金の支払い（５名）

【生徒の実態と考察】

「租税」という言葉に聞き覚えがない生徒も多数いたが、「税金」という言葉は全員が知っていた。知っている税金の種類としてはほぼ全員が「消費税」を挙げていた。生徒にとって消費税は身近な税金という認識が強いということが分かる。税金は何のためにあるか、という問いに対して、多くの生徒が国や国民の暮らしを良くするためと答えたことから、税金が我々の生活と深く関わっていることが分かる。しかし、なぜ税金は必要なのかという点においては、「義務であるため」という意見が多く、具体性のある回答は少なかった。

実態把握を通し、租税（税金）という言葉に聞き覚えはあっても、その使途や存在意義に関しての理解は十分ではないことが分かる。

２）「租税教室」の実施

テーマ 「税金の種類や税の仕組みを知り、我々の暮らしと税との関わりを知ろう」

ゲストティーチャー 仙台南税務署職員２名 （日野さん、井口さん）

対象：２学年６０名

段階	学 習 内 容	指導上の留意点
導入	・職員自己紹介 ・「税金のない社会」に関するDVDを見て、税金の大切さを知る。	・生徒にとって身近な事象を取り上げる。
展開	・DVDの内容を受けて、我々の生活のどのような部分に税金が関係しているのかを学ぶ。 ① 税金の種類 ② 税金の使い道 ③ 世界の国々との比較 ④ 税金のある社会とない社会の違いについて振り返る。 ・１億円のレプリカを手に持ち、重さや量を体感する。 ・質疑応答 ・DVDの内容や、パソコンを使っでの説明に関しての質問があれば質問をする。	・「消費税」や「所得税」など日々の生活の中で触れることの多い内容は、DVD視聴後にも、口頭で触れる。 ・パソコンを使い、分かりやすく税金の種類や税金の使い道について説明する。 ・何人かの生徒を選び、重さや量を体感できるようにする。 ・活発に質疑応答ができるようにある程度長く時間を取る。
終結	感想や意見、アンケート調査 （＊授業実施後のアンケートで行う）	・税金が我々の暮らしとどのように結びついているのかという観点に着目して振り返る。

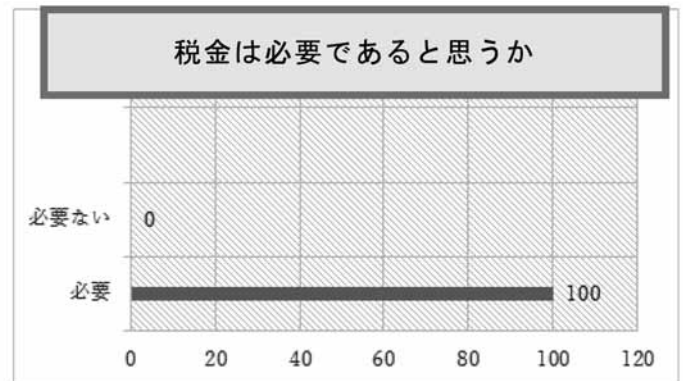
「租税教室」の様子 ※写真



3) 「租税教室」を終えて生徒の実態調査 (対象2学年60名) 回答者53名 <租税教室実施後>

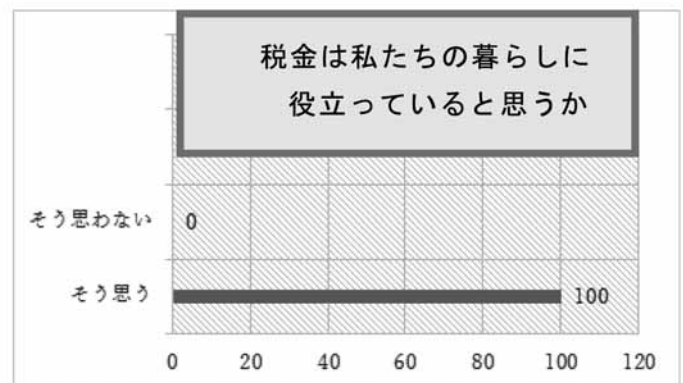
①税金は必要だと思いますか。

- ・必要 53名 (100%)
- ・必要ない 0名 (0%)



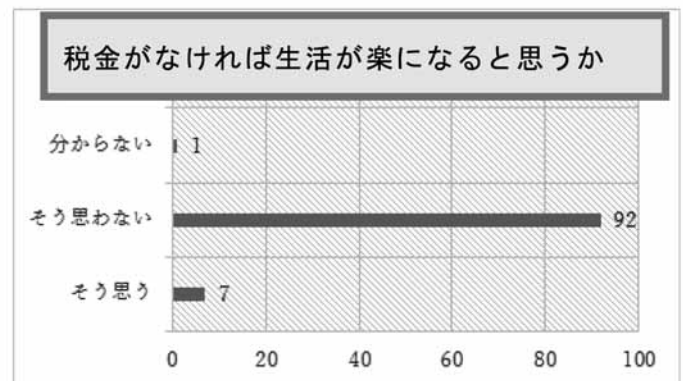
②税金は私たちの暮らしに役立っていると思いますか。

- ・そう思う 53名 (100%)
- ・そう思わない 0名 (0%)



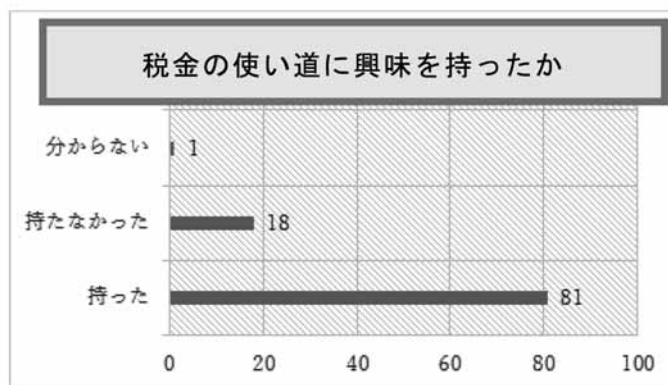
③税金がなくなれば、生活が楽になると思いますか。

- ・そう思わない 49名 (92%)
- ・そう思う 4名 (7%)



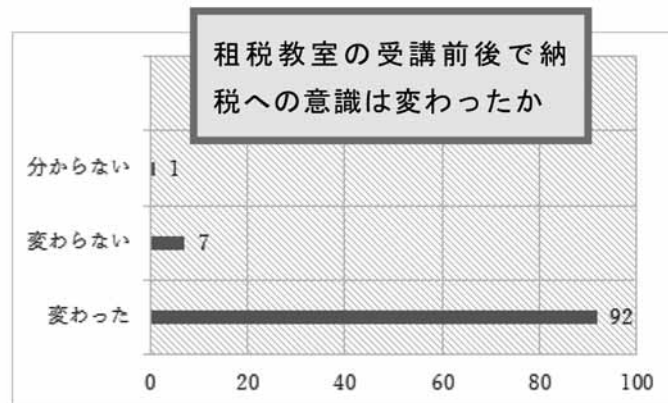
④税金の使い道に興味を持ちましたか。

- ・持った 43名 (81%)
- ・持たなかった 10名 (18%)



⑤租税教室を受講する前と後で税金を納めることへの意識は変わりましたか。

- ・変わった 49名 (92%)
- ・変わらない 4名 (7%)



⑥どんなことに税金を使ってほしいですか。 (主な回答)

- ・私たちの生活のため (50名) ・国のため (49名) ・県や町の復興のため (45名)
- ・生活に困っている人のため (40名) ・公共施設のため (25名)
- ・警察や病院の仕事 (17名) ・みんなが使うもの (6名)

⑦「租税教室」を終えての感想・意見

- ・税金は私たちの暮らしに役立っており、欠かすことのできないものであることが分かった。
- ・税金の使い道が詳しく分かり、税金がなくては私たちの暮らしが不便になってしまふことが分かった。
- ・税の種類や仕組みが詳しく分かり、税についてのメリット、デメリットが理解できた。

8. 成果と課題

租税教室を終えて税の種類だけではなく、使い道やなぜ今日の日本で納税という制度が採られているのか理解できた。また、個人の救済という観点だけではなく、税金は国民全員の生活の向上を目指して使われていることを知ったのも大きな成果であった。

生徒が租税をより身近な存在に感じ、将来の健全な納税者となり得るような教育が不可欠である。山元町は震災からの復興や教育行政に多くの租税による復興事業を受けてきた。今後も町の復興や他の教科と関連を図りながら、生徒にとってより身近な話題となるよう租税に関する授業を積極的に進めていきたい。

